

歌うよろこび、
聴くたのしみ、
音楽の宇宙を伝えた、



『皆川達夫先生

の想い出』

60名による追悼文集



好評発売中！

中世ルネサンス音楽史や、日本キリシタン音楽史研究の第一人者であり、『音楽の泉』の解説を長年つとめられた皆川達夫先生が帰天されて3年。

60名もの親交のあった関係者の回想、貴重な写真の数々、

オラショの原曲譜から、貴重な採譜資料までを収載。

資料的にも価値の高い一冊。



四六判・256頁
定価3,080円
(本体2,800円+税)

音楽之友社

I. Qui bene serit, bene metet

上げば尊し

(執筆: 爲本章子、高野紀子、今谷和徳、樋口隆一、佐々木 勉、宮崎晴代、那須輝彦)

II. Musica est scientia

音楽は学である

(執筆: 金澤正剛、徳丸吉彦、林淑姫、遠山公一)

III. Qui cantat, bis orat

歌う者は倍祈る

(執筆: 佐藤豊彦、山中真佐子、村松玲子、田上妙子、平尾雅子、佐藤陽三、長谷川冴子、鈴木雅明)

【座談会】皆川先生と中世音楽合唱団

IV. West meets East

西との出会い

(執筆: 竹井成美、中園成生、竹原創一、神戸倫樹美、野坂恵璃)

V. Their sound is gone out

その声は全地に及んだ

(執筆: 美山良夫、中田基彦、川本軒司、渡辺 信、奥田佳道)

VI. St. Paul's will shine tonight

自由の学府

(執筆: 辻 成史、辻 正子、星野昌三、佐藤隆子、荒松禎子、前川和之、西田克彦、松下久昭、赤井 淳、吉岡知哉、西原廉太、星野宏美)

VII. Deo Gratias

祈り

(執筆: アキレ・ロロピアナ、近藤淳子)

再録 (皆川達夫)

- 中世・ルネサンスの魅力 普遍性と国際性を内蔵して
- 音楽史月評退任の辞

皆川達夫先生略年譜

ここでお別れいたします。
皆さん、ごきげんよう、
さようなら。

ラジオ番組
『音楽の泉』の言葉より

皆川達夫先生プロフィール

1927年4月25日生まれ、東京府東京市(現・東京都)出身の西洋音楽学者/合唱指揮者。終戦後に東京大学に入学。音楽理論と作曲法を学び東京大学大学院へ進む。中世音楽合唱団を結成。その後、講師を経て渡米し留学。58年に帰国して立教大学で音楽史の授業を担当。以来、長崎県平戸市・生島島で、隠れクリスチャンによって口伝えて受け継がれてきた祈りの歌「オラショ」や、ラテン語の聖歌との関わりなどを研究し、『バロック音楽』『洋楽渡来考』などを執筆。ヨーロッパの中世・ルネサンス音楽史や、日本クリスチャン音楽史研究の第一人者として知られる。また、NHK-FM『バロック音楽のたのしみ』やNHKラジオ第1『音楽の泉』の解説を担当し、西洋古楽の普及に貢献する。美食家で、とくにワインに造詣が深いことでも知られる。2020年4月19日に死去。92歳没。